

# 富士見市基本構想策定ふじみ市民会議

## 平成22年度第1回 健康福祉部会 会議録

日時：平成22年7月12日(月)  
午後7時～午後9時20分  
場所：全員協議会室

### 出欠状況

市民会議委員	五十嵐委員、泉委員、臼井委員、大島委員、加光委員、加藤委員、川上委員、木内委員、茶木委員、星野委員
庁内専門部会員	健康福祉部長、健康増進センター所長、子育て支援課長
事務局	政策財務課 古屋、中島

内 容
1 開 会
2 あいさつ 市民会議部会長（川上委員）、庁内専門部会長（健康福祉部長）
3 検討事項 ・第5次基本構想前期基本計画の大柱別検討について 資料に基づき、大柱ごとに事務局より説明。
○質疑
・大柱 子育て支援の充実
委 員：すべての小柱に主要事業を記載するのか
事務局：すべてではない。
委 員：家庭保育室は、市内にどの程度あるのか。
専門部会員：4施設ある。以前は一般家庭で子どもを預かる形態のものもあったが、現在の家庭保育室は、保育士が配置され、数十人規模で経営している。
委 員：市から補助金が出ているのか。
専門部会員：保育所待機児童の受け皿でもあるので、委託料を支払っている。
委 員：子ども医療費について、助成対象の拡大により1億円以上の負担増と聞いたことがあるが、行政運営上、問題ないのか。
専門部会員：保護者に対する経済的支援は継続する一方、他市町村と協力して、国や県に費用負担を要請していきたい。
委 員：子育て支援サービスの充実と母子保健の連携について、相談に来られない人や外に出てこない人に母子保健担当がアプローチし、子育て支援サービスにつなげていく必要がある。両者の連携をどのように考えているか。
専門部会員：健診に来なかった人などへ個別にアプローチし、子育て支援センターと連携して、早めに友達を作っていくよう支援していくことなどが考えられる。特に第一子の子育て時における対応が重要である。

委員：民生委員・児童委員との連携も考えられる。

委員：子育て支援の前に、親が親となるための教育、「親学」が必要ではないか。

委員：そういう事業に参加して欲しい人は、現実には参加してくれない。

専門部会員：ご意見の趣旨は理解できるが、参加しない人への対応が難しく、基本計画の中に「親学」を盛り込むのは難しい。

委員：子育ての中に親としてのあり方を表現できればよいのだが。

専門部会員：子育て支援というよりも、公民館での取組みとも言える。

委員：縦割りの発想ではなく、横のつながりが必要である。

委員：小柱「子育て支援サービスの充実」のうち、「子育て支援団体や子育てサークル等との連携」とは具体的に何か。

専門部会員：子育てサークルのネットワークは、平成20年度にできたので、その参加者を増やし、広げていくことを考えている。

委員：子育てに関する情報発信やコーディネートのできる人材が必要ではないか。

専門部会員：コーディネート機能は、市立の子育て支援センターに持たせたいと考えている。

委員：親と子どもだけにスポットをあてるのではなく、家庭全体を見る必要があるのではないか。

専門部会員：それは目的が異なる。子育て支援サービスの充実と子育てにいき詰っている人への支援は別である。

委員：要保護児童対策は必要だが、現在の組織体制のままで充実できるのか。

専門部会員：参考として、乳幼児健診を受けた人の1割が何らかの問題を抱えており、保健師がそれを発見しているのが現状である。

委員：乳幼児健診に来られない人へのアプローチはどうしているか。

専門部会員：電話や訪問で対応している。

#### ・大柱 青少年の健全育成支援

委員：地域子ども教室は、地域というよりPTAの活動ではないか。

部会長：地域によって異なる。

事務局：理念としては重要だが、継続するのが大変という話は耳にしたことがある。

委員：地域子ども教室を運営していくのは大変であり、町会としても、市から言われてやっている一面がある。

委員：高齢者の生きがいくつくりと関連付けられればよいのではないか。

部会長：順調に運営している地域の方法を進めていけばよい。

委員：南畑や水谷東地域は、小学校と町会のまとまりがあってよいが。

事務局：施策分野ごとに、地域割りが異なっており、市としても課題であると認識している。

部会長：小柱「青少年の自主的な活動に対する支援」のうち、「ボランティア活動」とは具体的に何か。

専門部会員：広く一般的なボランティアではなく、児童館に関するボランティアを想定している。

委員：パレットまつりに児童館のボランティアスタッフが携わっている。

委員：水谷公民館の青空学校にも青年ボランティアが関わっている。

部会長：地区社協から中学校に依頼して、ごみ拾いなどのボランティアに参加してもらったことがある。ボランティア活動を教育の中に位置づけられればよい。

・大柱 健康づくりの推進

委員：パワーアップ体操について、東松山市のように、各個人のデータを把握し、定期的に計測していけば、もっとよいものになるのではないかと。

委員：その方が励みになる。

専門部会員：市では、健康増進センターや公民館で介護予防事業に取り組んでいるが、わかりにくいので、整理したいと考えている。個人データの測定については検討したい。

部会長：データ測定については、自主グループの数が多いため、市職員の負担が大きくなることから、測定する器具を市民に貸し出せばよいのではないかと。

委員：日時・場所を定めて測定してもよい。

専門部会員：水谷東、鶴瀬西、鶴瀬地域に介護予防の拠点施設があり、健康増進センターが認めた団体は使用料を減免している。

委員：介護予防に取り組んでいても、健康増進センターに認められていなければ、使用料を支払っている団体もある。

委員：特定健診について、以前は事前に問診表をもらうことができたので、記入して持っていくことができたが、今は、その場で問診されるため、非常に時間がかかる。市からそのような指導をしているのか。

専門部会員：市から指導はしていない。

委員：小柱「市民の健康づくりの推進」のうち「自己管理による健康な生活」は、重要だが難しい。地域に出向いて健康相談等を行うのはよいが、参加者の顔ぶれはいつも同じであるため、もっとPRが必要だと思う。

委員：土日の開催は、職員の調整等で難しい面もあるが、以前開催した時は参加者が多かった。

委員：生活習慣を変えるためには、気持ちの切り替えができるような取組みが必要である。

委員：食生活改善推進員が関わる料理教室等には、年間800人程度の参加があるが、人材確保が難しい状況である。

専門部会員：食生活改善推進員の取組みについて、三芳町は止めてしまい、ふじみ野市も細々と続いているのに比べ、本市は活発である。しかしながら、市民にあまり知られていないので、PRしていきたいと考えている。

委員：広報に記事を掲載したり、公民館に料理教室のちらしを置いたりしているが、見てもらえないのが現状である。

・大柱 地域医療体制の充実

専門部会員：第2次救急医療圏域は定められているが、実際の急患の5割は、朝霞や所沢など富士見市の属する圏域とは別の病院に搬送されている。

第2次救急医療は、各圏域の病院が輪番制で対応しているが、保健所では、その日の担当病院などの情報を公表していない。現在、どこの病院がいつ当番なのかといった情報を健康増進センターに知らせるよう、保健所と協議している。

なお、救急車を呼んだ場合は、本人の意思を確認し、第2次救急医療圏にかかわらず搬送している。

部会長：急病の場合、消防署に聞けば、対応する病院を教えてくれるのか。

委員：消防署に聞けば教えてもらえる。

委員：非協力的な病院があるので、市から働きかけて欲しい。往診してくれる医師を増やして欲しい。

専門部会長：午前中は外来診療、午後は往診している病院もあるが、病院側の体制の問題もある。

専門部会員：非協力的とは、患者と医師のトラブルのことか。

委員：そのとおりである。

専門部会員：トラブル時には、医師会長に仲裁に入ってもらふことや、県の相談窓口相談することが考えられる。

#### ○その他

- ・大柱「子どもの教育の充実」について、次回資料を配布する
- ・次回は7月20日（火）19時から。次回で検討が終了した場合は、7月26日（月）は開催しない。

#### 4 閉 会